



須田山さんのリスニングルームのスピーカー。手前からJBL「S4700」、MAGICO「A3」、Paradigm「Persona3F」、Sonus faber「ELECTA AMATOR III」。それぞれに導入に至るエピソードがある



販売店のショールームのように再生プレーヤーやアンプも今話題の製品が揃う



部屋にはサブシステムも設置。スピーカーはTANNOY「Stirling」、話題のアンプ、MARANTZ「SACD30n」も導入



## 須田山徹雄さん Tetsuo Sudauma



ケーブルはM&Mデザインで主に統一している



ご自宅は昨年11月に新築したばかり。この部屋はオーディオルームを前提に設計したという。壁は音響を考慮した5重構造で、床はコンクリートの上に60cmのケヤキ材を敷いている



優しさや豪快さを兼ねた地元の「ドン」を象徴する須田山さんの肖像画



# 特別企画 土方久明が行く！ オーディオ武者修行 青森編

多様なオーディオの楽しみを次の世代のファンに向けて提唱する土方久明氏。同氏が各地を奔走し、その土地のオーディオファンやショップ、メーカーを訪ねオーディオの知見をさらに広めていく企画がスタートする。その記念すべき第1回目は青森県。カーオーディオコンテスト等で旧知の仲となっている十和田市のオーディオファンと、八戸市でビュアオーディオにも力を入れているカーオーディオショップ「イングラフィ」そして、最後に八甲田山の麓を超えて一路青森市方面へ。最終目的地は本誌でもお馴染み、平川市にある光城精工を初訪問している。青森県内のユーザー、ショップ、メーカーとのふれあいを通じ、筆者は何を感じたのか?ぜひともお楽しみいただきたい。

Text by  
**土方久明**  
Husaki Hijikata

### ■ ユーザー紹介 本誌を愛読するファン 多様な機器を使い分ける

日本全国には沢山のオーディオファンがいて、各々が思い思いにオーディオを楽しんでいることだろう。そして、それを支えるオーディオショップや新進気鋭のメーカーも存在する。

「土方久明が行く、オーディオ武者修行の旅」は、そんな地方に向き、今まで紹介されていなかった未知なるオーディオファンやショップ、メーカーを読者の皆さんにご紹介する企画である。

記念すべき第1回は「青森県編」となるが、ここでは、本誌を愛読する一人の熱狂的なオーディオファンを紹介したい。

その方こそ、青森県十和田市に在住の須田山徹雄さんだ。

須田山さんは、数年前にご自宅を新築されたことを機に自宅内に念願のオーディオ専用ルームを作られた。家の建築価格は聞かなかったが驚くほど立派なご自宅で、しかも、オーディオ部屋は総工費の1/3に及んでいるという。

オーディオルームへのこだわりについては後ほどご紹介するが、写真を見てのとおり、使っている

オーディオ機材に圧倒される。

まるでお洒落なオーディオショップのような、機材が縦横無尽に部屋に並んでいるのだ。現行の機材を中心としたシステムでここまでの規模の方を紹介するのは歴史のある本誌でも初めてかもしれない。

メインシステムとして、スピーカーは、パラダイム「3F」、マジコ「A3」、JBL「S4700」、ソナス・ファベール「エレクタ・アマトールⅢ」という堂々の布陣。

それを駆動するアンプは、アキユフェーズのプリアンプ「C-3900」、同パワーアンプ「P-7300」、マッキントッシュのプリアンプ「C2700」同「MC462」、マークレビンソンのプリアンプ「No5206」、同パワーアンプ「No5302」で、マークレビンソンのセットは、2月に発売された本誌180号の表紙を見て「カッコいいな」と直感、ソナス・ファベールは、本誌でもよく執筆される小原由夫さんが推していたという事で購入したという。

試聴ソースはCDとハイレゾが中心で、CDプレーヤーはアキユフェーズ「DPI-560」、デジ

もわたり樺木(けやき)材が敷かれている！

須田山さんは、この部屋で仕事にいく前と帰宅後に音楽を楽しみ尽くしているという。

それにしてもなぜここまで熱中できるのか?

実は筆者は須田山さんと知り合ってから1年以上経つのだが、出会うの場所は意外にもカーオーディオコンテストだった。

須田山さんは、次のページに登場するカーオーディオ&ホーム/ビジュアルシステムを構築する気鋭のショップ「イングラフィ」の常連客で、複数の車両にハイエンドのオーディオをカスタムインストールペティターとして知られている。カーオーディオコンテストは一堂に車が集まり、審査員が音質をチェックして順位を決めるオーディオの大会だ。

そう、須田山さんが機材のジャンルにこだわらず複数のシステムを同時に運用する理由の1つはコンテスト対策もあるのだ。

コンテストでは基準となる課題曲(大体がヴォーカルものとかラシックもの)があり、高域、中域、低域など各帯域のクオリティや音像表現やサウンドステージなど

### 匠のオーディオルーム 須田山さんの耳はかなり鋭い

話をオーディオルームに戻すが、この部屋には、かなりのこだわり、という圧倒的な物量が投入されている。横の壁は強化を重ねるもの厚みがあり、床はコンクリートの上になんと60センチの厚さに



青森県平川市にある約1,000平方メートルあるという(株)光城精工の松崎工場。電源の総合メーカーとして、オーディオ用電源だけでなく、医療器用電源やLED製品、カスタム電源モジュールの開発、製造、販売を行っている

# “音がやせたとは言わせない!!” 光城精工の人気モデル、開発の裏側に潜入

十和田市の須田山徹雄さん宅、八戸市のイングラフィを訪ねた翌日。季節は初夏。新緑の八甲田山の麓を車で走らせ、一路平川市へ。筆者も初探訪となる光城精工に到着した。ここではどんな発見と出会いが待っているのか?音がやせたとは言わせないこの言葉をポリシにKOJOブランドが辿ってきた道のりはどんなものだったのか?人気の連結式タップ、クリスタル・シリーズの開発者でもある同社電源事業部長、土岐泰義さんの案内のもと、ヒット製品が生み出されていく舞台裏に潜入することにしよう。

Text by  
**土方久明**  
Husaki Hijikata

## 土方久明が行く、オーディオ武者修行—青森編—

が審査される。  
マジコやバラダイムのスピーカーでは、ソース音源に入っている情報を忠実に表現しつつ、ジャズヴォーカルやクラシックはそれぞれに強いスピーカーも使い音楽的な表現力をつかもうと考えているのだと、筆者が推測する。  
それを証明するかのように、須田山さんの耳はかなり鋭い、帯域バランスや音像/サウンドステージ、ヴォーカルや楽器の質感への感性は、筆者が知るホームユーザーの中でもかなりの凄耳を持っている方なのだ。  
このシステムでの音を女性ヴォーカルとクラシックの交響曲で聴かせてもらった。  
良い音とはその瞬間にわかるものだが、今回はまさにそれだ。まず部屋の響きが抜群に良い。デットでもなくライブ過ぎでもなく、音楽を生き生きと表現する部屋、驚くべきは低域の質感で、一般的な住宅では難しいほどローエンドが伸びている。これは床の影響が大きいはずだ。  
スピーカーを複数設置した事による相互干渉も十分に抑えられており、サウンドステージの奥行きもある。自宅内でこの音を聴けることは正直羨ましい。

須田山さんは、オーディオに興味がない知人を招いて良い音の素晴らしさを教えているそうだ。最後に須田山さんは、「夢には2つある。寝る時に見る夢と叶う夢」と筆者に教えてくれた。須田山さんのバイタリティの高さは、「この格言から来ているんだ」と筆者は心打たれたが、何よりも須田山さんは、仕事も軌道に乗ってついに夢の空間を手に入れたのである。  
■オーディオショップ  
**ホームオーディオを愛するカーオーディオ界の寵児**  
「土方久明が行く、オーディオ武者修行の旅—青森編—」。続いては、最近、東北地域で存在感を増している青森県八戸市のオーディオショップ、イングラフィを紹介したい。  
同店の業務内容はホームオーディオ、ビジュアル、カーオーディオと幅広い。お店を切り盛りするのは、創業者の木村智聡さん(41歳)。礼儀正しいイケメン店長で、なんと以前は海上自衛隊の護衛艦乗りだったという経歴を持つ。  
オーディオや音楽が大好きだった木村さんは、自衛隊を退官後、カー用品販売では最大手のオート

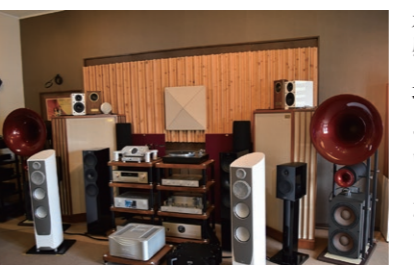


(株)イングラフィの代表取締役、木村智聡さん(写真左)。ピュアオーディオ、カーオーディオ、ホームシアターの販売、取り付け、メンテナンスまでをこなし、趣味のピリヤードもプロ級。まさに趣味の人である

**ingraph(イングラフィ)**  
〒039-1161 青森県八戸市河原木五反田17-4  
TEL:0178-38-7213  
営業時間:10:00~20:00  
定休日:水曜日  
ホームページ:https://ingraph.jp



ヴィンテージオーディオにも造詣が深い木村さん。店内には程度のいいマランツ「Model 9」も展示されていた



店内はまさに真正正銘のオーディオショップ。アナログからハイレゾ再生までに対応できる、木村さんのセレクトした製品が試聴できる

「土方久明が行く、オーディオ武者修行の旅—青森編—」最後は、今、勢いのある、オーディオアクセサリーメーカーである、株式会社光城精工(KOJO TECHNOLOGY)を訪問して、同社オーディオ部門について、SNSでアイコン的存在になっているジョーンの隊長こと土岐泰義さんから、企業規模や電源事業のことなどを根掘り葉掘り聞き出した。  
光城精工は青森県の最高峰の山、岩木山から見下ろせる平川市に本社と工場を構える企業だ。平成2年に半導体検査部品(プローブカード)の製造を開始する形で、事業をスタート。平成10年と13年には工場を新設、平成16年には本社工場の増設と開発課を設立するなど事業を広げてきた。  
今回は平川市松崎西田地区にある同社の工場にお伺いしたのだが、最初に驚いたのは、KOJO製品が作られていたのは、床面積、約1000平方メートルにも及ぶ大きく立派な施設だったことだ。  
人気の電源アクセサリーを始めとするオーディオ事業は、同社の中では1つの部門であり、それ以外

ボックスや有名なカーオーディオ専門店を腕を磨いた。そして2006年に自分のショップを創業、2014年に現在の場所に店舗を移転したという。  
お店は2階建てで1Fはホームオーディオとカーオーディオのシヨールームと車両へのオーディオ製品の取り付け用ビットがあり、2Fはピリヤード台が置かれたシアートルームとなっている。  
カーオーディオについては、スピーカーやドライブレコーダーの取り付けといったライトな作業から、カーオーディオコンテストなどのメジャーイベントにも出場。今年行われた「ヨーロッパ・サウンド・コンテスト」では、最上位クラスとなる「ディーラークラス」で優勝した他、多くの部門で表彰台に立っている。  
そんなイングラフィだが、近年はホームオーディオのお客さんが増えているらしい。というのも木村さん自身が、ホームオーディオが大好きなオーディオファイルなのだ。

店内には本誌で特集されるような国内外のオーディオ製品が展示されている他、片隅にはコッソリとマランツ「モデル7」やLINN「LP12」などの銘機が置かれている。信頼できる音の良い製品を展示することがお店のポリシーだが、同時に木村さんは、アルテックやJBLなど、ヴィンテージオーディオも愛している一人なのだ。  
国内のオーディオメーカーや輸入商社の間でもイングラフィは注目されつつあり、今後はさらに存在感を増していくだろう。

■ KOJO TECHNOLOGYの連結タップ クリスタル・シリーズのラインアップ



Crystal 3.1

¥20,900(税込)  
3口仕様の電源タップ



Crystal 6.1

¥28,600(税込)  
6口仕様の電源タップ



Crystal 3P

¥23,100(税込)  
3口仕様の連結式タップ



Crystal C1P

¥37,400(税込)  
サージアブソーバ(雷対策)とノイズフィルタを搭載



Crystal 2P2

¥39,600(税込)  
サージアブソーバ(雷対策)搭載のデジ/アナ分岐型タップ



Crystal C2P2

¥48,400(税込)  
サージアブソーバ(雷対策)とノイズフィルタ搭載のデジ/アナ分岐型タップ



Crystal H1P

¥58,300(税込)  
トランスの唸りを抑えるDC サプレス機能搭載

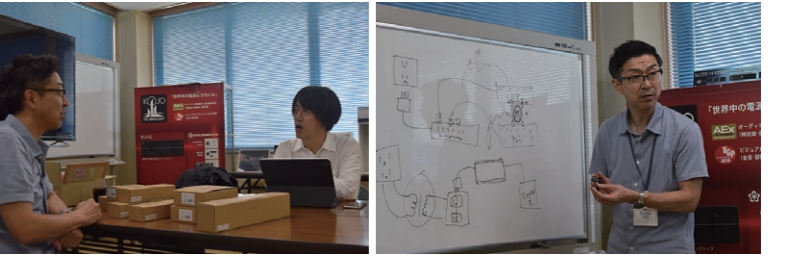
Crystal L1P

¥61,600(税込)  
電源起動の際に発生するオーディオ機器の突入電流を抑制



株式会社光城精工  
取締役 電源事業部部長

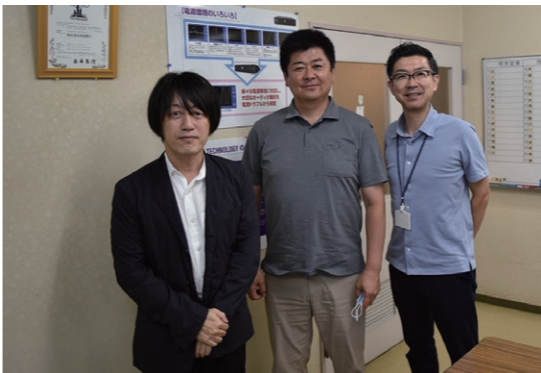
土岐泰義さん



土岐さんにクリーン電源の音の方向性を決めるレシビを享受していただく



人気のクリスタル・シリーズのタップと現在開発中の新製品を手にする筆者



社内の製造現場も見学することができた

同社の代表、芳賀克之氏(写真中央)にも会うことができた

外にも各種機器の組立や調整、検査など、大手エレクトロニクス企業の下請業務を行うなど、数十人のスタッフが就業している。

SITの研究に携わった生粋の電源エンジニア

現在、同社が発売するオーディオ関連製品は、2019年の「オーディオアークセサリー銘機賞」で金賞を受賞したクリーン電源の「DAI6」や、ロングセラーの「ARAYMKII」、さらにリジエネレータ出力(1系統)＋トランス出力(2系統)を持つ、ハイブリッド型電源「KATANA25」など多くのクリーン電源をラインアップする。

しかし、なぜKOJOと土岐さんはクリーン電源の製作を始めたのだろうか。実は、土岐さんが同社に入社した事がきっかけで事業がスタートしたという。

土岐さんは元々別会社で、理化学系向けUPS(無停電装置)などの電源設計を行うエンジニアだった。また、「ミスター半導体」と言われる、故西澤潤一博士が率いる、(財)半導体研究振興会の半導体研究所で、「SIT素子」(ヤマハのB1やファーストワットのSIT1/2/3などのアンプが採用するパワーデバイス)アプリケー

ションを研究して、SITデバイスを利用した電源の開発にも携わった。

土岐さんによると、実はその頃から水面下でオーディオ用電源の開発を進めていたという。きっかけは医療用電源を納品で知り合った、オーディオ好きのお医者さんから、「オーディオ用を作っていないか」と打診された。

程なくして土岐さんは光城精工に入社して、オーディオ用電源事業をスタートさせた。

しかし、開発は苦労の連続だったという、SITデバイスの生産が終わり、別のデバイスで代用したモデルの音は、「クリーンな音だが前モデルに比べて音に力がない」とオーディオファイルに受け入れられなかった。

静寂感だけでは売れない力感ある中低域も大事

そのような中、元々大手楽器メーカーに所属し数々の音響設計やプロデュースを行うチーフプロデューサーのI氏と知り合う。最初に現行モデルを聞いたI氏は「今までにない静寂感があり、大変性能が良いけど、これでは売れないでしょう」と、卓上のイコライザーを動かして、「皆が求めているのは、この音でしょう」と力感ある

中低域の表現を求めたのだ。

衝撃を受けた土岐さんは新モデルの設計を開始。スタッフとともに月に何回もI氏のアトリエでチェックを繰り返したという。

その結果、大変評価の高い現在のクリーン電源が誕生したのだ。土岐さんによると開発を通じてクリーン電源の音の方向性を決めるレシビが分かったという。「コックは製品を構成する複数のパーツの相互作用です、ただし力感を求めすぎるとステレオイメージが狭くなるので注意しています」と話す。

構造やアイデアで勝負 求めやすい価格を維持する

さらに、同社では電源関連のアクセサリ「クリスタル・シリーズ」が大人気だ。突入電源を制御するソフトウェア機能付き電源タップ「L1P」、トランスを搭載したオーディオ製品で時折折気になるトランスのうなりを抑制するDCサプレス機能搭載の「H1P」に加え、サージ(雷対策)がされた電源タップなどをラインアップ。

これらの製品についての設計思想には上述したクリーン電源でのコックが投入されているというが、感銘を受けたのは「私たちの製品は闇雲に高価な材料を使わず、構造やアイデアで勝負する事で、

高い性能と求めやすい価格を維持しています」という言葉だ。

連結可能な電源タップのシリーズ展開も好評だというし、なんと土岐さんは製品のデザインまで行っているという。同社タップのスクエアが無駄のないデザインは高く評価している。

また、同社製品で最近品切れを起こすほどの人気を誇る電源タップと、売り切れが続く仮想アースの「クリスタルE」や、それと組み合わせる専用のアースケーブル「クローン・シリーズ」(次のページで試聴レポートを掲載)も注目できる。

それにしても立派な設備だった。会社規模が大きいメリットとして、様々な部門の知見を製品開発に利用できること、自社生産の範囲が広がること(協力会社に頼らない)部品の調達コストが下がること、これにより最終的な製品単価を抑えることができる。同社の製品が安価で性能の良い理由は、土岐さんの存在と、それを下支えする企業規模の結果だろう。

そんな土岐さんによると将来、興味深いクリーン電源の発売も予定されているとのこと、今後の同社の展開から筆者は目が離せない。

## 光城精工の気になるアイテムを自宅で試聴

Text by 土方久明  
Hisaaki Hijikata

# 人気の仮想アース「Crystal E」で 2種類のアースケーブルを聴き比べる



### KOJO TECHNOLOGY

## Clone1/Clone2 オーディオ専用アースケーブル

● 導体：「1」=PC-Triple C / 「2」=6NCu+HiFC+PCUHD+OFC (4種ハイブリッド) ● 導体断面積：2sq (0.26mm×37本) ● 絶縁体：ポリエチレン ● 絶縁体+導体外径：φ3 ● シース：編み組みチューブ (黒：ポリエチレンテレフタレート) UL/CSA規格 ● シース外径：約φ5.5 ● 長さ：1.2m (Clone1&2/02のみ0.2m) 【端子形状と価格】① Y-Y=¥8,580 (1.2m) ② Y-Y=¥5,280 (0.2m) ③ RCA-Y (1.2m)=¥9,680 (1.2m) ④ XLR (オス) - Y=¥10,780 (1.2m) ⑤ XLR (メス) - Y=¥10,780 (1.2m) ⑥ φ3.5 ステレオ-Y=¥9,680 (1.2m) ⑦ USB TYPE A-Y=¥10,120 (1.2m) ⑧ USB TYPE microB-Y=¥10,120 (1.2m) ⑨ USB TYPE C-Y=¥10,780 (1.2m) ⑩ ワニ口クリップ-Y=¥9,680 (1.2m) ⑪ LAN-Y=¥10,340 (1.2m) ※ 価格はすべて税込表記

### KOJO TECHNOLOGY

## Crystal E 仮想アース ¥34,320 (税込)



### 導体の違う2つのケーブル、多様な端子形状も揃う

今回光城精工を訪ねた後、手始めに同社の電源タップを発注すべく、ホームページを覗いていたのだが、そこで「Cloneシリーズ」と名がつく、オーディオ用の専用アースケーブルの存在が気になった。本シリーズは、同社のホームオーディオ専用仮想アース「Crystal E」や、車載用ボディアース強化BOX「ve-02」と組み合わせ、ソース機器、アンプ、などの多くのオーディオ機器やネットワークハブに良質な仮想アース環境を構築できるアイテム。導体の違いによって2つラインが存在し、「Clone1」はPC-Triple Cを使用。「Clone2」は超高純度6NCu(純度99.9999%)を中心に高機能純銅線HiFC、高純度無酸素銅線PCUHD、高純度無酸素銅OFCという4種類の素材をハイブリッドで採用している。

つまり、導体の違いにより音色、音調が違うという。先述したとおり、様々な機器に適合させるため、端子形状の違う複数のケーブルがラインアップされていることも特徴で、幅広く使える一般的なYラグタイプから、RCAインターコネクト、XLRバランス、3.5mmステレオミニジャック、USBはType A、Type C、microB、さらにRJ-45のLANに対応するモデルや、シャーシなどに手軽に接続できる、「ワニ口クリップ」対応モデルもある。これにより、レコードプレーヤー、CDプレーヤー、ネットワークプレーヤー、DAコンバーター、DAPなどのポータブルプレーヤー、さらにネットワークハブまで様々なオーディオ機器を仮想アースにつなげるのだ。

興味深いのは「Clone1」と「Clone2」は価格が一緒だということ。導体のコストが違うにもかかわらず価格を変えなかったのは同社の良心かもしれない。(両方を試させて、ケーブル沼に引き込まうという狙いかもしれないけど(笑) 製品のビルドクオリティも高く、シースには耐摩耗性に優れたポリエチレンテレフタレート(UL/CSA規格)編み組みチューブを使用。Yラグは音質と酸化防止に配慮した金メッキ製で、専用圧着工具で急激な圧着加工を行うことで、端子部とケーブルを融着一体化させている。これは同社が持つ高度な制作技術が生かされた部分だ。

### ● 「Clone1」を試聴

#### 背景の静寂感が確実に増して、リアルさや音像がより深くなる

それでは、同社の仮想アースの「Crystal E」と組み合わせて、クオリティチェックに入りたい。筆者宅の2階オーディオ環境は、プリメインアンプにソウルノート「A-1」。ソース機器は、C/Dドライブ搭載のミュージックサーバー(デジタル出力専用)、カクテルオーディオ「X50Pro」、USB-DAコンバーターはソウルノート「D-2」、NASには、フィ

データ「HFAS1-HN80」ネットワークスイッチ(ハブ)はSOTMの「sNH-10G」となる。最初はアンプの「A-1」で試す。本機では、Yラグ、RCA、XLRと複数の接続方法が取れる。まずはYラグタイプの「Clone1」をシャーシ裏に止めるビスに接続して、「Crystal E」と結んだ。再生ソースはハイレゾのダイアナ・クラール「ディストリーム・オブ・ユー」である。音質は予想以上に違う。一聴して背景の静寂感が増して、聴感上のSN比が間違いなく向上している。口元のリアルさや音像がより深くなる。「これは凄いな」と思わず口に出た。

次にアンプのRCA入力に「Clone1R」、さらにXLR入力に対し、「Clone1XW/メス」を順番に試した(同時接続はしていない)この場合は、シャーシのネジを緩めることなく、さらに手軽に接続できるのがメリット。それぞれの音は基本的にYラグ接続と同じ印象だが、中高域の質感表現が若干変わってくる。

### ● 「Clone2」を試聴

#### 「1」は中高域の表現がスムーズ、「2」は空間の見通しが際立つ

さらに「Clone2」も同条件で試して、両者の音を比較したのだが、ノイズフロアの減少効果はほぼ同様だが、音色/音調に無視できないほどの違いが出てくる。「Clone1」は、中高域の表現がスムーズでダイアナ・クラールのエコー成分がスーッと抜けていくような音。「Clone2」は、もう少し明瞭な質感になり、1つ1つの楽器のディテールや空間の見通しが変わってくる。どちらにも良さがあり、これは迷いそうだ。

ネットワークラポートのX50Proには、RCAの「Clone1R」とXLRの「Clone1XW/メス」を試したが、こちらはかなり高い効果を感じた。デジタルの高周波を扱っている関係かもしれないが、ノイズフロアの聴感上の減少はアンプ以上である。最後はネットワークハブsNH-10Gの空いたLAN端子に「Clone2L」を試したのだけど、これが本試聴のハイライトとなった。

最も変わるのセンター定位するヴォーカルの奥行き表現が大きく上がり、口元の動きがより見えてくることだ。ネットワーク環境の高品位化が目される昨今だが、「ハブを使っている方に1度試してもらいたい」思うほどの効果があった。

ハイレゾのアドバンテージは、録音時のADで小レベルの音が漏れなく記録されることにあるが、今回の仮想アース導入によって今まで埋もれていた音が浮き出て、空間表現の向上やヴォーカルや楽器のリアリティ向上に寄与している印象だ。

使いこなしのコツとしては「Clone1」と「Clone2」では、音色、音調が変わるので、より自分がイメージする音の方向を狙うと良いだろう。また、可能な限り1台のオーディオ機器に対して、「Crystal E」も1つ使用することでアースループの防止にもなる。

